

厚岸湾におけるキタアメリカフジツボの温度耐性に関する研究

頼末武史

東北大学大学院農学研究科・女川フィールドセンター

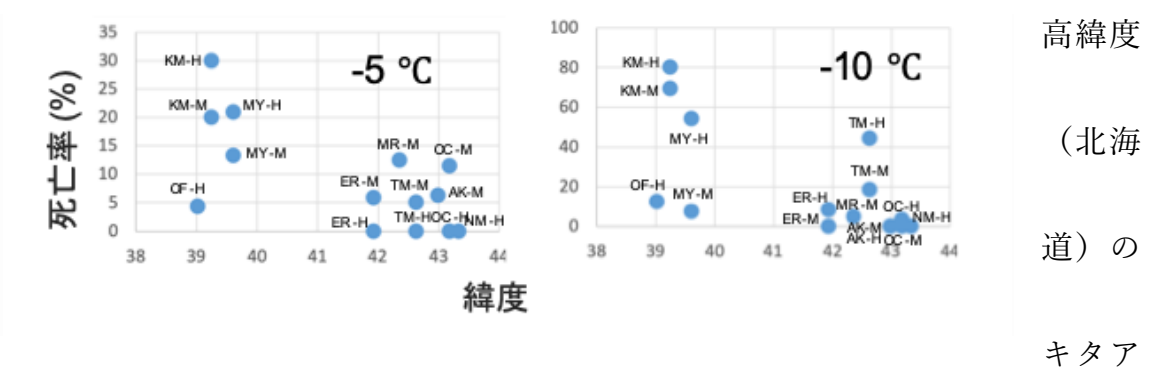
はじめに

外来種の定着・拡大機構を解明することは沿岸生態系保全にとって重要な課題である。キタアメリカフジツボ (*Balanus glandula*)は北米太平洋岸を原産とする潮間帯性のフジツボで、国内では東北太平洋岸から道東域にかけて定着が確認されている。本種の温度耐性は分布に大きな影響を与えている可能性があるが、移入先の温度環境に応じた耐性の変化の有無については未解明である。

本研究で実施したこと

東北～北海道の太平洋岸の潮間帯でキタアメリカフジツボを採集し、北海道大学・厚岸臨海実験所において、 -5°C 及び -10°C に14時間置いた後の死亡率を測定することで、本種の低温耐性の地域差を調べた。

本研究でわかったこと



メリカフジツボ集団の方が低緯度（東北）の集団よりも高い低温耐性を示した

図1. 低温耐性実験の結果。2文字のアルファベットは採集地、HとMはそ

(図 1)。本種が東北に定着し、分布を北上させる際に、低温耐性に対する自然選択が働いたのかもしれない。本研究は温度耐性が沿岸海洋生物の分布に大きな影響を及ぼしていることを示唆している。また日本沿岸において、外来生物の定着と分布拡大に温度環境が大きな影響を及ぼしていると考えられる。